

間接の努力

校長 館岡 靖哲

長雨の季節、この時季は体調を崩す生徒が増加する傾向にあります。養護教諭によれば、朝食を食べていない、夜更かしをしている等が原因で体調不良を訴える生徒が目立ちます。ご家庭においても「早寝、早起き、朝ごはん」のご協力をお願いいたします。

さて、この6月は多くの学校行事や対外的な活動があり、本校生徒の活躍が目立ちました。5月30日(土)から学校総合体育大会の市予選が開催されました。どの部活も与野東中学校代表として、正々堂々と最後までよく頑張ってくれました。団体戦ではサッカー部(市3位)、男女バレーボール部(共に市5位)、体操部(市〇位)が、個人戦では女子剣道、新体操、陸上(男子〇名・女子〇名)、水泳(男子〇名・女子〇名)が県大会出場を果たしました。どの種目も、さいたま市の代表として引き続き雄姿を見せてほしいと思います。また、6月7日(日)中央区一斉の災害発生を想定した避難所運営訓練では、与野東中会場で72名の生徒、上落合小会場では20名の生徒が訓練に参加し、炊き出しや物資の搬送、救護体験等を経験しました。この経験を踏まえ、災害発生時には避難所の運営や地域での活動に貢献してほしいと思います。

ところで先日、高等学校の授業を参観する機会がありました。国語の授業を参観していて、私の高校時代に受けた国語の授業を思い出しました。国語を担当していた恩師は、「幸田露伴(こうだろはん)」(1867~1947 日本の近代文学を代表する作家)をご専門に学ばれた方で、授業で露伴の『努力論』(1912)を紹介してくれました。露伴は努力というものについて、よく観察してみると、「直接の努力」と「間接の努力」の2種類があると指摘しています。直接の努力とは、さしあたっての当面の努力で、目の前のことに全力を尽くすことです。例えば「部活で大会に向けて努力をする」などです。間接の努力というのは、将来に向けて準備を行なう努力、基礎となる努力のこと。例えば人としての感性を磨くことや人間性を高めることなどです。もちろんどちらも重要な要素で、両者とも怠ってはいけないものです。これは「目に見える努力、見えない努力」と言い換えられることがあります。この2つの努力のうち、私たちは直接の努力に力点を置いてしまい、間接の努力は怠りがちになります。努力しても、結果が伴わない、若しくは努力が長続きしない原因として、間接の努力をせずに、直接の努力だけを重視したことと指摘するのが『努力論』の特長の一つです。

ところで、ある情報誌に、作家「城山三郎(しろやまさぶろう)」(1927~2007)の考える、これからの時代に求められる人間像についての記述がありました。

右肩上がりの時代は、実力があるとか、実績があるとか、人間がどうかなどは問わない。しかし、変化の時代には「あの人間が来るのなら信用して取引しよう」など「あの人間なら」という人格がものを言ってくる。「あの人間」になるチャンスだ。

ここでの「あの人間」とは、『努力論』での間接の努力で培われる人間に違いないと感じます。本校の生徒は積極的にボランティア活動や地域の行事に参加してくれます。その場では、地域の方々と触れ合う中で、気付かないうちに人としての感性が磨かれ、人間性も高まると思います。正に「間接の努力」です。このような貴重な場を提供してくださる地域の方々には、改めて感謝申し上げます。